砂丘

No.11 2007.1.

発行：独立行政法人　国立病院機構
鳥取医療センター
発行責任者：柏木　徹

理念

1. 人類愛に基づく、質の高い医療を提供する。
2. 患者本位の医療体制を確立し、充分な説明と同意の下に、自由意志を尊重し、人としての尊厳を守る。
3. あらゆる情報の公開に努め、医療人としての自己研讃に努める。

新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。医療機関に勤務する者はその社会的役割上、多くの国民が休日を楽しむ年末年始であっても普段と変わりなく業務に当たらなくてはなりません。昨年末から今年にかけて出勤し働いて頂いた皆様には誠にご苦労さまでした。

昨年は統合２年目の年ということで、院内の各部署の機能が統合初年度よりは整えられてきたのではなかろうかと思います。統合後１年間の概観についてはＮＨＯだよりno.28（平成18年７月号）に寄稿しましたが、院内にはまだまだ大小様々な問題が認められます。当院を利用して下さっている患者さんやご家族の皆様に満足のいく医療を提供できているのか、経営状態の問題は解決するのか、病院の将来は安定したものになるのか、統合時に更新築できなかった重心病棟等はどうするのか、ＮＨＯ病院としての重要な機能のひとつである医療観察法病棟は造るのか、造るとするならいつごろの開棟を予定するのか、院内の職員が一体感と仕事に喜びを持って日々の業務に取り組めているのか等々課題は数え挙げれば切りがありません。今年はこうした多くの課題に果敢に取り組む年であって欲しいと願っています。

これらの諸課題を乗り越えて、さらに地域からなくてはならない病院と認められ愛される病院に成長して行かなければなりません。そのためにも、全職員が国立病院機構の理念と当院の「人類愛に基づく質の高い医療を提供する」ことを実現していきましょう。

最後に、新しい年が当院が関わる患者さま・ご家族・地域そして職員にとっても幸せ多い年になりますよう祈念して新年の挨拶と致します。

院長　柏木　徹

● クリスマス会 ●

療育指導室　保育士　西　村　典　子・横　川　正　枝

12月13日に重心病棟で「クリスマス会」を開催しました。５・６病棟は合同で、７・８病棟はそれぞれの病棟で行いました。５・６病棟の患者様は車椅子で療育訓練棟に集合。病棟毎の点呼にみんな大きな声でこたえました。

代表者によるクリスマスツリーへの点灯でクリスマス会が始まりました。部屋を暗くして、天井にサンタクロースやクリスマスツリーなど色々な模様を映し出すOHPや、ミラーボールを楽しみました。

続いて、御家族の方がジングルベルの歌に合わせた「銭太鼓」と「ありがとう」の歌に合わせて手袋と団扇を使用したブラックシアターを演じて下さいました。とても短時間で練習したとは思えない出来ばえに患者様・職員共々感動し、拍手喝采でした。引き続き各病棟の代表者によるケーキカットで、会は一層盛り上がりました。

そこに待ちに待ったジャスコ鳥取店、津ノ井店の従業員さんが扮した３人のサンタクロースがプレゼントを持って登場しました。今回の慰問は昨年から引き続いて６回目となり、患者様はサンタクロースから一人ずつプレゼントを受け取り大喜びでした。また来年も来てくださることを約束して、お別れをしました。

７・８病棟も同様にクリスマス会を楽しみました。

皆様のご協力の下、沢山の人が参加してのクリスマス会を開催することが出来ました。有り難うございました。

● 一年の計は「とんど」にあり ●

看護師長　清水泰史

1月11日の午前中に「とんど」をおこないました。統合して初めての昨年の正月に、ある病棟の行事でおこなったささやかな「とんど」が、今年は病院の行事として計画され、火の回りには80名の人が集まりました。体調の都合で３階、４階の窓からの見学者を含めると、100名を超えていました。

因幡の名峰から生まれて日本海に吹き抜ける冬の風は大変強く、当院はその通り道です。ところが当日は全く風もなく、昨年悩まされた雪もなく、絶好の「とんど」日和になりました。作業療法で作成した書初めや作品を手にした患者様、しめ飾りを持参した職員等、大きな人の輪ができました。勢いよく燃え上がる炎は時節行事であることを伝え、私達は一年の計を誓い、童心に帰るひと時でした。

医療の現場で神頼みというブラックユーモア。しかしこの日（火）ばかりは、どんな薬や優しい言葉かけより、純粋に祈ることが最良の治療のように思えました。新しい行事として来年も定着できればと思います。

無病息災、病気平癒、家内安全etc…私たちが持つ様々な希望（時に欲望とも言われますが）をしっかり受け止めて、正月の歳神様は炎と煙に送られて天に帰って行かれました。

● 防火避難訓練について ●

庶務係長　富田博之

防火避難訓練が11月21日14時から日勤時間帯の昼間想定で行われました。第３病棟（神経・筋）食堂・配膳室から出火したとし訓練を開始。火災報知器の鳴動に続き、全館への非常放送、各々消火器を片手に火元へ走り(精神科病棟から大層な距離があり息を切らせている職員もいました)、初期消火体制をとり、患者避難を第一に車いすを利用して、模擬患者の避難援助・誘導を的確に機敏に行い無事に避難しました。

また、当日の朝は小雨でしたが訓練の頃には雨もあがり、避難訓練後病棟の消火栓を使い取扱訓練を実施しました。今年も、緊張感のある防火避難訓練が実施でき、職員の防火意識の向上が図れました。

湖山消防署の講評

意志の疎通、引き継ぎは的確に出来ていました。訓練では声が出ないことが多々ありますが、本日の訓練ではよく声が出ていました。被害を最少に食い止め、延焼を防ぐために次の３点に注意して下さい。

①初期消火、消火栓により消火できない場合は、出火点への酸素の供給を絶って下さい。

②本日は、避難経路が２本ありましたが、一方の出口は開放したままでよいのですが、避難が早く終わった出口は閉鎖して下さい。

③各病室の避難の確認は一名ではなく、複数で確認すれば何度も同じ部屋に行かずに済みます。職員間の連絡の方法を構築して下さい。

看護研究発表会を実施して

副看護部長（教育委員長）　難　波　富　子

看護研究は看護専門職としての自己研鑽の一つであると言われています。平成18年12月４日当院大会議室で統合後はじめての第１回看護研究発表会を実施しました。昨年は統合により発表を延期した為、今回は２年越しの発表となりました。

看護研究の指導はＮＨＯ米子医療センター附属看護学校の花田待子先生にお願いし、一昨年（平成17年）の10月から各病棟、個別に指導をして頂きました。発表までに看護研究に対する基本的な講義を一回（全体）、その後、個別で看護計画書について２回、まとめに関して２回の指導を計画しました。

発表当日の企画運営について、発表形式や会場準備をどうするかについて検討の結果、12セクションの発表はポスターセッションとし２時間で行う。目的を「お互いの研究成果を報告し意見交換が出来る」としました。

ポスターセッションは初の試みであり、会場の使い方、参加者の移動方法など教育委員で緻密な打ち合わせを行いました。発表者は指定されたスペースに研究成果をわかりやすくまとめ、上手に提示することや、論文とポスターの両方をつくることの負担やプレッシャーがあったようです。しかし、担当者の指示どおり計画的に準備ができ発表日を迎えることが出来ました。

発表は３群に分け、１群で４席の発表を順次行い、その後４席まとめて質疑応答を行い、１群ごとに指導者より評価を受け、次の群のボード（予めポスターを掲示している）に参加者全員が移動することにしました。

ポスターの掲示は発表当日午前中より行こない、「少し地味ね。やっぱり派手なほうが目立つよね。中身よ・・・」等の声があちこちから聞こえながらも、それぞれの病棟が楽しく準備を行いポスター掲示は素晴らしい出来映えだと感心しました。

いよいよ13：30分から発表です。司会者のオリエンテーションに続き、座長にバトンタッチです。

座長は本年度実習指導者講習会に参加した３人の副看護師長に講習会での学びを是非発揮してほしいとの思いでお願いし、事前に細かく打ち合わせを行いました。さすが副看護師長です。発表者、フロアに気配りをしながらスムーズに進行され、時間があれば質問をしたいと思った発表もありました。

研究の特徴としては症例研究と調査研究であり、看護現場の疑問や悩みから生じた精神、重症心身障害児（者）、神経筋難病、結核、一般リハビリの専門領域の看護実践現場ならではの発表でした。現場で悩み、迷いながらも良い看護をしたいと言う思いが伝わってきました。

臨床研究は患者、家族との関わりの中で生まれる現象を共有化し経験知や臨床知として明文化することだと言われています。この研究から得られた成果は私達の看護を形式知として後輩に伝えていくことになり、課題やヒントは次の研究テーマとなります。

当日、振り向けば副院長、臨床研究部長の顔があり、看護に関心を寄せて頂いていることを大変心強く思いました。医師からのシビアな質問に、発表者は少々戸惑うこともありましたが、多いに場を盛り上げて頂きました。２時間という短い時間でしたが参加者全員が充実感を味わうこと、学び合うことができました。今回は看護部の発表となりましたが、今後コメディカルが一緒に業績発表会（仮）を企画できれば鳥取医療センターとして一層の活性化が図れるものと思いました。第１回の看護研究発表会は大盛会に終わり関係者一同大変嬉しく思っています。終わりは始まりの一歩です。

看護教育は人間、社会、健康、看護の概念で支え

られています。近年、社会のニーズに伴う医療変革の波に私達の看護観も大きく揺れ動いています。変えてはならない看護の理念、変えなくてはならない看護の概念を見定めるべく、看護部では今、平成18年度の看護目標の評価を行い、次年度に向け当院が目指すべき専門看護実践能力とは何なのかについて、話し合いを進めています。

鳥取医療センターとしての看護へのこだわりを追求し新たな研究へと研鑽を重ねて行きたいと思います。この研究発表を支えて頂いた、花田先生を始め多くの皆様に感謝いたします。

看護研究の発表を行って

5病棟　山田成功

去る12月４日、院内の看護研究発表会が当院大会議室にて開かれました。今回の看護研究発表会は、鳥取医療センターになってからは初めてのものでした。私も、発表者として参加したのですが、初めてだったため非常に緊張しました。

私は看護学校を卒業し、当院に就職して４年目になります。私が就職して２年目の時も、看護研究のメンバーとして参加させていただきました。そのときは、看護学校での卒業論文ぐらいでしか研究の事は知らなかったので、当時の研究メンバーの先輩看護師にいろいろ教わりながらの関わりでした。しかし、今回は私が病棟の代表として発表することとなり、大きな責任を感じました。病棟の看板を背負って、沢山の聴衆の前で発表するということで、「一字一句間違えてはいけない」とか、「質問に対しては毅然とした態度で答えなければならない」などなど、変なプレッシャーを感じていました。そのため、事前に発表の練習を念入りに行ったり、スラスラ読めるよう早口言葉を何度も唱えてみたりと、自分にできる限りの努力はしてみました。

さて、実際はどうであったかというと、予行練習や当日の朝からしていた早口言葉の甲斐あってか、なんとか間違えることなく発表することができました。質問に対しては、心の中ではドキドキしながら、しかし、それを面に出さないように努力して答えることができたと自分では思っています。第三者の目から見ると、動揺しているのがばれているかもしれませんが。ただ、私としては発表が終わり、ようやく肩の荷が下りてほっとしているところです。

ここで、私の病棟がどのような看護研究をしていたか、簡単に説明させていただきます。当病棟では、患者様の様子をお便りに書いて、毎月家族の方へ送っています。そのお便りに対して、家族の方はどのように思っておられるのか、満足しておられるのかを知るためにアンケートを実施し、今後にお便りを通しての情報提供に活かそうという研究でした。それにより、家族の方々の思いというものを知ることができました。

ここで私が感じたことは、看護研究は患者様やその家族、また病棟、病院等周囲の人々に還元されなくてはいけないということです。今回の私達の病棟での研究は、家族とのコミュニケーションの重要さを知ることができ、家族と看護師との関係のさらなる向上のきっかけになったと思っています。当病棟だけではなく、他の病棟も同じように、看護研究を通して何かに役立てていきたいという思いは強いはずです。

今年度の看護研究は終わりましたが、今後も看護研究に関わることがあると思います。その時も、今の気持ちを忘れることなく、真摯に取り組んでいけたらと思っています。

表彰おめでとうございます

看護部長　高　山　民　子

昨年、当院から2名の方々が表彰されましたので紹介いたします。

一人は平成18年度社団法人日本精神保健福祉連盟会長の表彰です。精神科看護に20年以上貢献し、病院長からの推薦された人が対象となります。今回は昭和55年から現在まで、チームの中でいつも変わらず誠実に活躍されている、12病棟の太田和枝さんが精神保健福祉事業功労者表彰を受けられました。

もう一人は結成10周年の記念行事の一環として行われた鳥取千代ライオンズクラブからの表彰です。推薦基準は30年以上で日夜看護業務に励んでこられた人が対象となり、もう一つの条件として看護協会員であることがあげられていました。精神科の在宅支援委員として活躍し、常に前向きに努力されている13病棟の森井孝江さんを看護部から推薦し表彰していただきました。

お二人の表彰は看護部に取って大変誇りに思っています。今後ますます鳥取医療センターのためにご活躍くださる事と期待しております。

太田和枝

森井孝江

院内保育園「のびのび保育園」のご紹介

園長　田　村　代　里　子

私たちの「のびのび保育園」は、現在園児数10名という少人数ですが、家庭的な雰囲気の中、子どもたちは園の名前のとおり個性豊かに“のびのび”と元気いっぱいです。明るい職員とともに、いつも笑いの絶えない楽しい保育園です。

自然環境にも恵まれ、わらべうたを中心に一人一人を大切に“たくましく豊かな子、頭も身体も使える子”を保育目標に職員は頑張っています。先日は、親子で楽しめるように、地域の「読み聞かせの会」の方を招いて大型紙芝居を観たり、親子一緒にわらべうたで遊んだりした「親子お楽しみ会」と「餅つき大会」を行いました。毎年行っている餅つき大会は、昔ながらの杵と臼を使い、お米も蒸籠で蒸してペッタンコ、ペッタンコと4臼を搗き上げました。お父さん、お母さんはもちろん、おじいちゃん、おばあちゃんもたくさん来園され、子どもたちの餅搗きに目を細めておられました。

日々の保育では、年齢の小さい子どもたちに無理のないように、天気のよい日には砂遊び、泥んこ遊び、お散歩などをして戸外の遊びを沢山しています。また、四季折々の行事や遊びを取り入れ、ちまき作り、プール、七夕、落ち葉遊び、芋掘り、焼き芋パーティ、クリスマス会、雪遊びなど楽しんでおります。

近年、テレビ、ゲーム等により生活もどんどん便利になって行く反面“人”として必要な何かが失われているような気がします。そんな時代だからこそ、今この豊かに伸びていく可能性のある乳児期、幼児期の子どもたちに、「自然とのふれあい」「人との関わり」「人の温もり」を伝えて生きたいと思います。

院内保育所としては、まだまだ課題はありますが、大切なお子さんをお父さん、お母さん方が安心して預けられるように、現状のニーズに対応しながら職員一同頑張って行きたいと思います。当院職員に限らず入園を希望される方、短期間の一時預かりを希望される方は、いつでも気軽に相談してください。お待ちしております。

● スピーカーズバンクのご案内について ●

日頃から地域または会社で健康について関心があり、病気の予防、早期発見・治療などの話しを聞きたいが、何処に依頼したらいいか分からず、困ったことはありませんか。

当院では、それに応えるよう職員がお話出来る内容を登録しています。これを「スピーカーズバンク」と名付けましたので、ご利用ください。

なお、申し込みは経営企画室へお電話又は申し込み用紙をFaxして下さい。

◎電話　０８５７－５９－０８９２→接続後２１５をプッシュして下さい。
又は、０８５７－５９－１１１１（代表）
Fax　０８５７－５９－１５８９
【担当　経営企画室　渕上又は宝田】

スピーカーズバンク登録演題

平成19年１月22日現在

	演　　題	講　演　内　容	対象	講 演 者
1	ALS患者に対するコミュニケーション支援について	ＡＬＳ患者（人工呼吸器装着状態）の用いるナースコール・家族呼びブザー・透明文字盤について	一般	作業療法
2	褥瘡ケア	予防・措置（栄養管理）	一般	看護部
3	一次救急（ＢＬＳ）	異常（意識・呼吸・循環等）の見方と対処方法	一般	看護部
4	心の病気の予防と早期発見	特に小中学生等に分かりやすく具体的に	一般	看護部
5	呼吸器の管理	呼吸器の構造と取り扱い（管理）	一般	看護部
6	手洗いについて・スタンダードプリコーション		一般	看護部
7	重症心身障害児（者）について（看護・生活）		一般	看護部
8	アルツハイマー認知症は生活習慣病、呆ける前に予防を。	予防のための食事、生活習慣	一般	臨床検査科長
9	メタボリックシンドローム予防のための食事療法	コレステロール、中性脂肪を抑えるために	一般	栄養管理室長
10	腰痛の予防と体操について		一般	理学療法
11	車椅子や杖などの使用法について		一般	理学療法
12	家庭における障害老人の移動介助法について		一般	理学療法
13	高齢者、障害者が住みよい住宅改造について		一般	理学療法
14	高齢者における転倒予防について		一般	理学療法
15	脳卒中後遺症者のための身の回りの自立に役立つ自助具について		一般	理学療法
16	摂食・嚥下について		一般	言語聴覚士
17	言語障害のある人との接し方		一般	言語聴覚士
18	高次脳機能障害とは		一般	言語聴覚士
19	摂食・嚥下障害の方へ	安全に、楽しく、美味しく食べるために	一般	栄養士

※上記以外、当院の専門とする医療（精神科、神経内科、小児神経）に関わる内容の講演についても ご相談下さい。

● ＭＲＩ共同利用のお知らせ ●

当院では、かねてから要望のありましたＭＲＩの共同利用について、このほど外部からの撮影依頼を受け入れることといたしました。

受入に関する手順書等を作成しましたので、詳細につきましては下記までお問い合わせ下さい。

担当者　企画課　医事専門職
ＴＥＬ　０８５７－５９－１１１１(代表)　ＦＡＸ　０８５７－５９－１５８９

外来診療科担当医表

独立行政法人国立病院機構鳥取医療センター　　　平成19年1月1日現在

			月	火	水	木	金
内科			松本	小西	松本	塩	松本
						小西	
精神科	初診	診察室6	坂本	土井	柏木	松島	高田
		診察室7	林	池成	池成／岡田	土井／岡田	林
	再診	診察室1	高田	松島	土井	高田	柏木
		診察室2	松島	坂本	川口	助川	土井
		診察室3	池成	林	林	池成	坂本
		診察室7					池成
		診察室8					岡田
神経内科		1	下田	岡田	井上	金藤	土居
		2	後藤	下田	金藤	土居	井上
小児科		1	中野	小松	赤星	中野	赤星
専門外来	睡眠外来	精神科5	坂本		高田		高田
	神経内科（予約制）		失語症 パーキンソン病	高次脳機能障害	失語症 パーキンソン病	嚥下障害 失語症	失語症 パーキンソン病
			下田	下田	井上	金藤	下田
	小児科（予約制）		発達外来 小枝	発達外来 赤星	発達外来 中野 予防接種 15:00~16:00		

◆所在地　〒689-0203 鳥取県鳥取市三津876番地
◆電話　0857－59－1111
◆診療受付時間　午前８時３０分～午前11時３０分
◆専門外来診療時間　午後１時３０分～午後３時００分（睡眠外来の受付時間は午前中です）
◆休診日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始、ただし、急患の方はこの限りではありません。
◆ホームページ　http://www.hosp.go.jp/~nisitori/

睡眠時無呼吸症候群と生活習慣病について

睡眠時無呼吸症候群（Sleep Apnea Syndrome：SAS）という病気があることは、2003年の山陽新幹線の運転士による居眠り運転の事件でご存知の方が多いと思いますが、いったいどのような病気かご存知でしょうか？

「昼間とても眠くなる」、「大いびきをかく」「眠っている間に呼吸が止まる」などの特徴を聞かれたことがおありの様に、ＳＡＳとは睡眠中に断続的に無呼吸を繰返し、その結果、日中傾眠などの種々の症状を呈する疾患です。しかし、この病気の怖さはもっと別のところにもありです。それは夜の無呼吸状態が体に悪影響を与え、じわじわと体を蝕み、多くの患者さんは高血圧、心臓病、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病を合併しています。放置すると生命に影響を及ぼすことがあります。

しかし、ＳＡＳを治療することで生活習慣病を軽減できたり、予防することもできます。適切な検査を行い、ご本人にあった治療を行うことが大切です。当院では、月・水・金曜日の睡眠外来で、睡眠時無呼吸症候群の検査・治療を行っております。ご本人やご家族で心当たりのある方は早期に受診されることをお薦めいたします。

臨床検査科　岡本　敏